ご注意：

本書は取り扱い説明書から注意文など、製品の操作方法について直接関係のない部分や余白などを削除、修正したものです。操作方法が分からなくなったが説明書が手許にないとか、製品に興味があるが操作方法はどのようになっているのか先に知りたい、といった場合にお使い頂く事を念頭に編集しており、正しくお使い頂くためには必ず製品に同梱されている説明書をお読み下さい。又、本書が完全な説明書では無いことに対するクレームは一切お受け致しませんので、予め御理解ください。

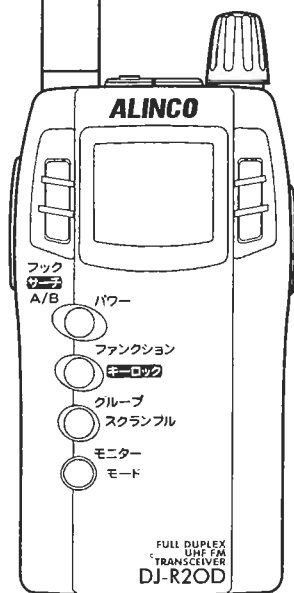
尚、正式な説明書は無線機販売店でご購入いただけます。詳しくは下記の弊社ウエブサイトをご参照ください。

http://www.alinco.co.jp/denshi/14.html

ALINCO

特定小電力ハンディトランシーバー
（総務省技術基準適合品）

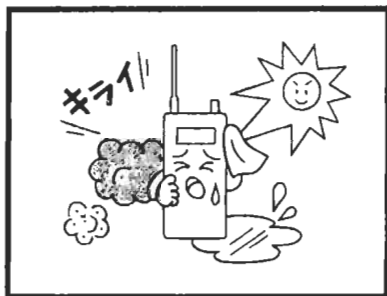
DJ-R20D

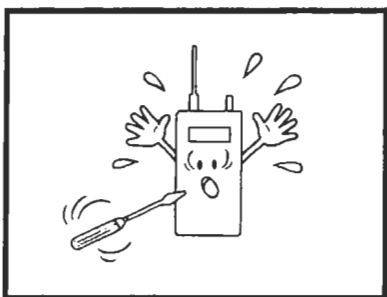
取扱説明書

アルインコのトランシーバーをお買い上げいただきましてありがとうございます。本機の機能を充分に発揮させ、効果的にご使用いただくため、この取扱説明書をご使用前に最後までお読み下さい。また、この取扱説明書は大切に保管して下さい。ご使用中の不明な点や不具合が生じた時、お役に立ちます。

アルインコ株式会社

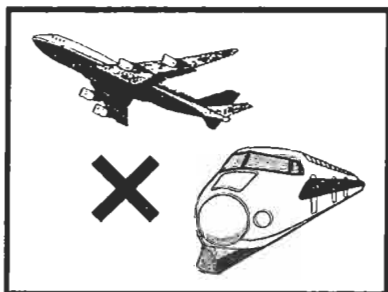
◆◆◆ 目　次 ◆◆◆

■ご使用環境

高温、多湿、直射日光の当たるところ、ほこりの多い場所は避けてお使いください。

■分解しないで

改造、変更は禁止されています。分解したり内部を開けることは絶対にしないでください。

■ご使用禁止場所

本機は総務省技術基準適合品ですが、使用場所によっては思わぬ電波障害を引き起こすことがあります。次のような場所では使用しないでください。

航空機内、空港敷地内、新幹線車両内など。また日本国内でのみ使用してください。

■交信距離

交信のできる距離は周囲の状況によって大きく異なります。
（複信モードでは約２割ほど短くなります。）

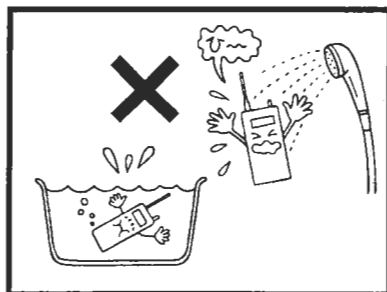
大体の目安（10mW時）

海　上	：3km
ゲレンデ	：2km （見通しの良い所）
郊　外	：1～2km
市街地	：100～200m

■障害物

本機に採用されている電波は直進性が高いため、間にビルや橋脚、又は山や丘陵等の障害物があると交信できる距離が短くなります。

■水につけないで

防水設計ではありませんので、図のようなご使用は避けてください。なお、水雪等が付いた時は手早くふき取ってください。

お使いになる前に

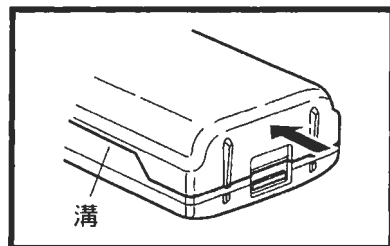
本製品をお使いになる前にお読みください。

付属品と付け方

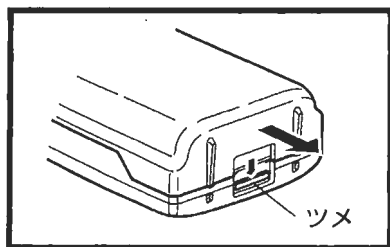
開梱しましたら、付属品を確認してください。

- □電池ケース
- □ストラップ
- □ベルトクリップ（ビス１本）
- □取扱説明書（本書）

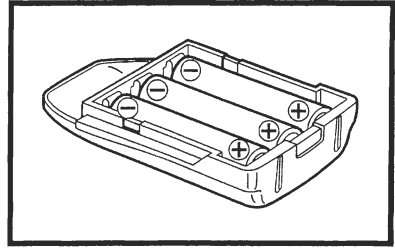
■ 乾電池ケースの取り付け

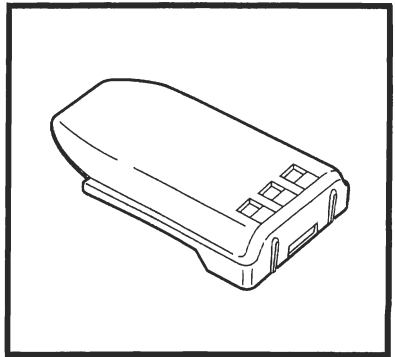
乾電池ケースを本体の溝に合わせて、矢印の方向に押さえるように「カチッ」と音がするまで押し込みます。

■ 乾電池ケースの取り外しかた

乾電池ケースのツメを押して、矢印の方向にゆっくり引き抜きます。

メモ　オプションのニッケル水素バッテリーパックも同じ方法で着脱できます。

■ 乾電池のセット

市販の単３型アルカリ乾電池３本を、ケース底面の「＋」、「－」の表示にしたがってセットします。

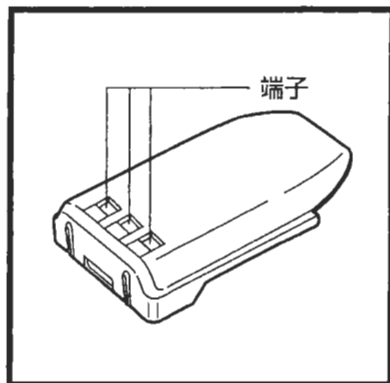
注意
・市販の単３型ニッカド乾電池は使用しないでください。
・乾電池は同じ種類の新しいものを使用してください。
・高容量のアルカリ乾電池を使用してください。

■ ニッケル水素バッテリーパック

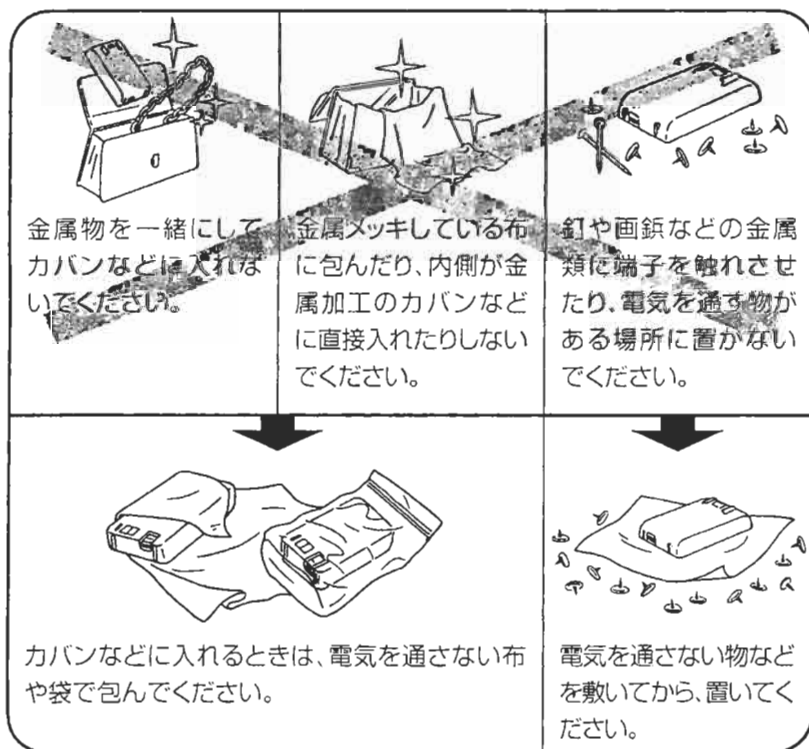
●オプション
EBP-52N（3.6V-500mAh）
EBP-53N（6.0V-500mAh）
EBP-54N（3.6V-1500mAh）

注意 バッテリーパック使用上の注意
・バッテリーパックは出荷時には充電されておりません。
お買い上げ後に充電してからご使用ください。
本バッテリーをEDC-105で充電する時は最大10時間が必要です。
充電は0℃～40℃の温度範囲内でおこなってください。
・バッテリーパックの改造、分解や火中、水中への投入は危険ですからしないでください。
・バッテリーパックの端子は絶対にショートさせないでください。
機器が損傷したり、バッテリーの発熱による火傷の恐れがあります。
・必要以上の長時間の充電（過充電）は避けてください。バッテリーの性能を低下させる恐れがあります。
・バッテリーパックの保存は、－20℃ ～ +45℃の範囲で湿度が低く乾燥した場所を選んでください。
それ以外の温度や極端に湿度の高い所では、バッテリーの漏液や、金属部分のサビの原因になりますので避けてください。
通常の使用で約500回の充電が可能ですが、所定の時間充電しても使用時間が著しく短い場合は寿命がつきたものと思われます。新しいものにお取替えください。
・ご使用済みのバッテリーパックは、環境保護のため、燃えないゴミといっしょに捨てずに、当社サービス窓口に相談するか、または電池回収協力店へご持参ください。

1

1

■バッテリーのショート防止のご注意

バッテリーパックを持ち運ぶときには、端子をショートさせないように注意してください。
大電流が流れて火傷や火事を起こす危険があります。

■バッテリーの保管について

バッテリーを保管するときは、以下のことに注意してください。

金属物を一緒にしてカバンなどに入れないでください。

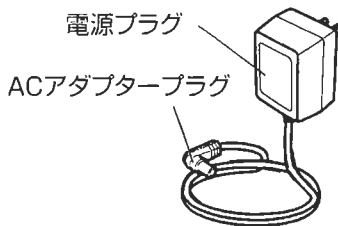
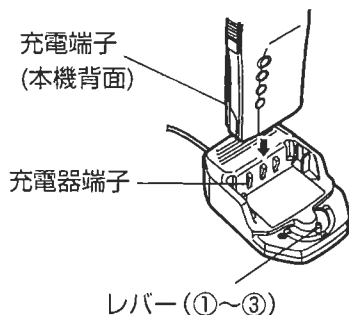
金属メッキしている布に包んだり、内側が金属加工のカバンなどに直接入れたりしないでください。

釘や画鋲などの金属類に端子を触れさせたり、電気を通す物がある場所に置かないでください。

カバンなどに入れるときは、電気を通さない布や袋で包んでください。

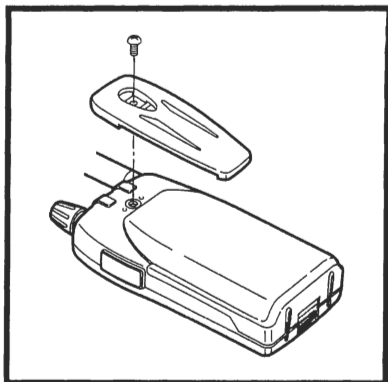
電気を通さない物などを敷いてから、置いてください。

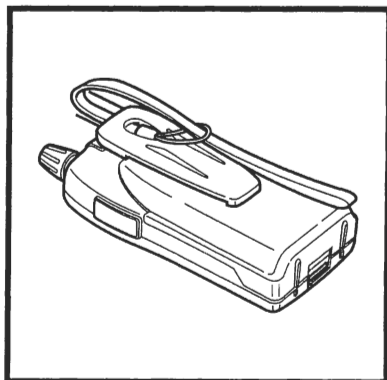
■ 簡易充電器（EDC-92、EDC-105）の充電方法

1 本機にニッケル水素バッテリーパックを装着します。(バッテリーパック単体でも充電可能です)
2 ACアダプタープラグを充電器本体に接続します。
3 充電時、本機背面の充電端子と充電器の端子とが接触するように、充電器のレバーで、①から③の位置を選択してください。(バッテリーの種類により位置が異なります)
4 電源プラグを家庭用電源のAC100Vのコンセントへ接続します。
5 充電器の赤色LEDが点灯し、充電状態となります。(接続時は常時充電状態です。)

注意

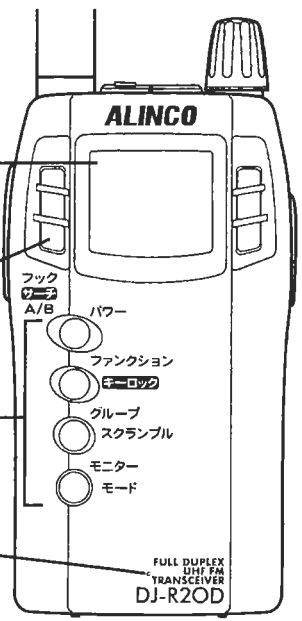
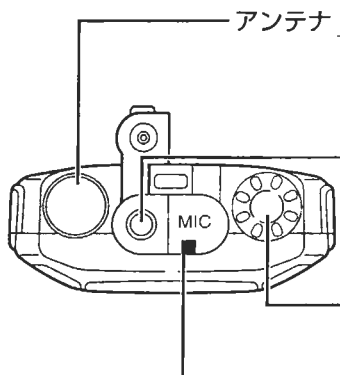
- 必ずEDC-92とEDC-105をセットでお使いください。
- 充電中バッテリーの温度が一定以上高くなると、保護回路が動作し、充電をストップします。(赤色LEDが消灯します) その場合、速やかに本機及び、電源プラグを取り外し、原因を取り除いてから使用してください。
- 簡易充電器(EDC-105)を充電使用時には、必ず本機の電源を"OFF"にしておいてください。
- 簡易充電器(EDC-105)を使用しない時には、電源コンセントから外しておいてください。
- 他社製品の充電等には、絶対に使用しないでください。
- 充電時間はバッテリーパックの消費状態及び各商品によって異なりますが、最大約10時間必要です。
- 各バッテリーパックの取扱説明書を参照してください。
- 本機の充電端子を金属片等で短絡させたりすると、本機にダメージを与える場合があります。
- AC100Vが著しく低下すると、充電できないことがあります。

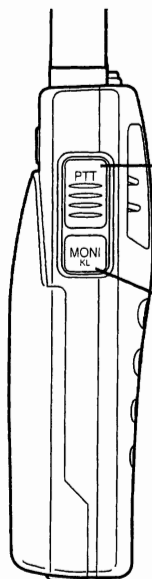
■ ベルトクリップの取り付け

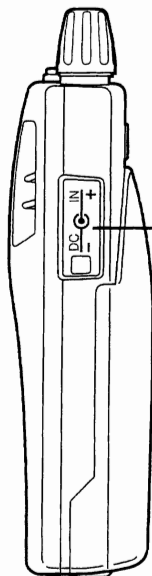
ベルトクリップを付属のネジで本機の背面に取り付けます。
確実に取り付けたことを確認してください。

■ ストラップの取り付け

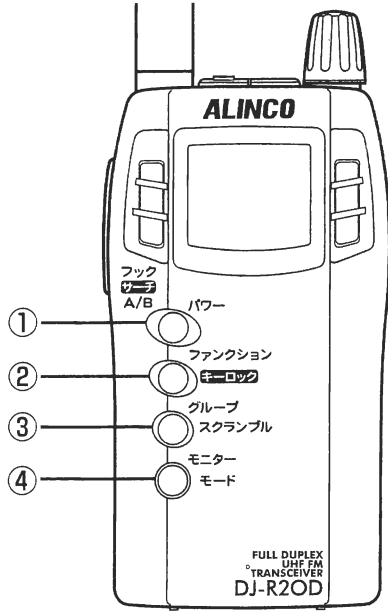
ベルトクリップと本機の溝の間に右の図のように取り付けます。

各部の名前とはたらき

本機の各部の名前とそのはたらきを説明します。

■ 前面部

■上面部

注意　アンテナは外れないようになっています。アンテナを回したり、引き抜いたりしないでください。

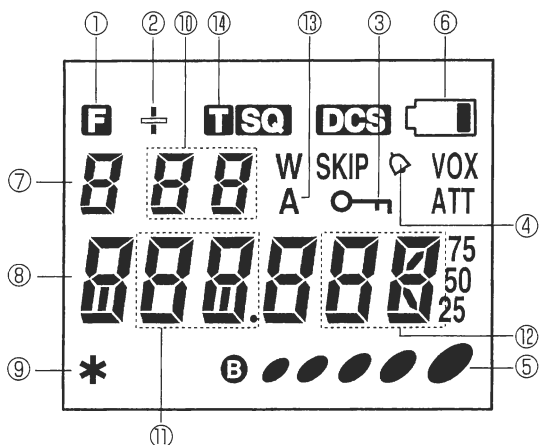
■ 側面部

[PTT]キー
押すと送信します。離すと受信に切り替わります。

[フック（サーチ）(A/B)]キー
・複信無線機能（モード2、4）で呼び出しに応じる時に押します。
・空いているチャンネルを探します。（モード1）
・F点灯状態では、周波数帯（A←→B）が切り替わります。（モード3〜8）

DC-IN
外部電源接続端子です。オプションのフィルター付きシガーライターケーブル（EDC-36）を接続し、車中で使用できます。ジャック極性はピン中央が＋極、外側が－極です。なお、外部電源を使用する場合は、DC4.5〜DC16.0、1A以上の安定化電源を使用してください。

■ キー配置

	キー名称	機能
①	[パワー]キー	電源をON/OFFします。
②	[ファンクション(キーロック)]キー	各種設定の開始に使います。約1秒間押し続けるとキーロックができます。
③	[グループ(スクランブル)]キー	グループトーク機能に使います。F 点灯状態(※1)では、音声反転機能に使います。
④	[モニター(モード)]キー	相手の声が途切れるときに使います。F 点灯状態では、モードの切り替えに使います。

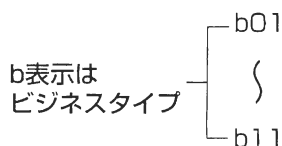
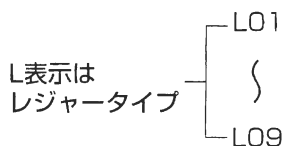
※1:F 点灯状態とは、[ファンクション(キーロック)]キーを押して、ディスプレイに F を点灯させた状態です。

1

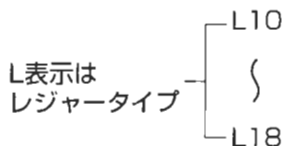
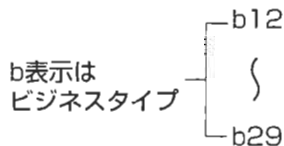
■ ディスプレイ

	説　明
①	ファンクションキーを押すと点灯します。
②	バッテリーセーブを解除したときに「—」が点灯します。
③	キーロックされているときに点灯します。
④	ベル機能設定時に点灯します。
⑤	受信レベルあるいは送信出力レベルを表示します。
⑥	電池の残量が少なくなると点灯します。
⑦	現在設定されているモードを表示します。
⑧	レジャーチャンネルかビジネスチャンネルかを表示します。
⑨	スクランブルトーク時点灯します。
⑩	周波数帯を表示します。
⑪	ch番号を表示します。
⑫	グループ番号を表示します。
⑬	オートパワーオフON時に点灯します。
⑭	送信中に点灯します。

■ チャンネル表示について

●単信時（モード1）

レジャー、ビジネス両方の20チャンネルを搭載しています。

L表示のチャンネルでは、従来のレジャータイプ（9チャンネル機）と通信できます。

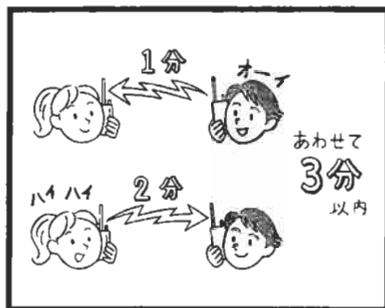
b表示のチャンネルでは、従来のビジネスタイプ（11チャンネル機）と通信できます。

●複信時（モード１以外）
レジャー、ビジネス両方の27チャンネルを搭載しています。

L表示は レジャータイプ	L10 〜 L18	b表示は ビジネスタイプ	b12 〜 b29
	9チャンネル		18チャンネル

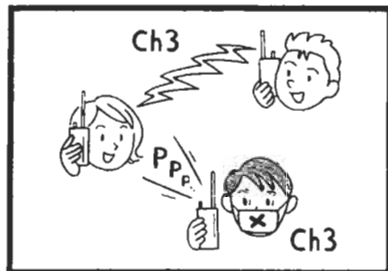
特定小電力の交信制限について

特定小電力トランシーバーの交信に関する制限事項を説明します。

■ 一定の時間以上は連続で送信できません。（3分制限）

送信、受信合わせて3分以内です。
10秒前に警告音が鳴ります。（モード5、7設定時および受信時は無効）
交信時間が合計3分になると自動的に交信は停止します。

注意
・3分の交信時間制限により、自動的に交信が止まった後は、約2秒たたないと次の送信はできません。
・ビジネスチャンネルで送信出力を「LO」にした場合、3分制限は働きません。（モード1以外）

■受信中は送信できません。

一定の強さの信号を受信している時はPTTキーを押しても送信出来ません。
受信中にPTTキーを押すとアラーム音が鳴り、送信できないことを知らせます。（モード1設定時）

注意　ビープ音量を0に設定している時、アラーム音は鳴りません。（P.43）

8つの交信モード

DJ-R20Dで使用できる8つの交信モードの概要と操作方法を紹介します。

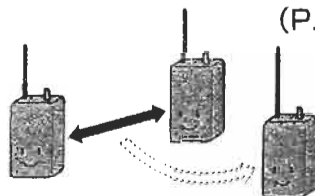
各モードの概要

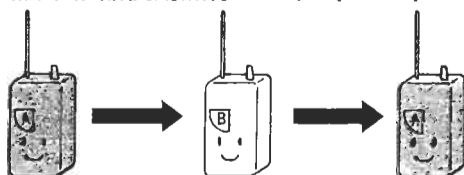
ここでは8つの通信モードの概要を説明します。

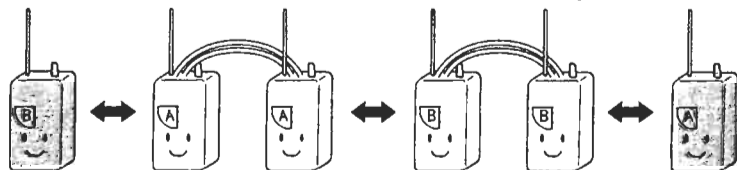
2

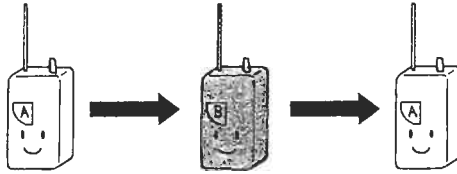
■モード1：単信無線モード
(P.22)

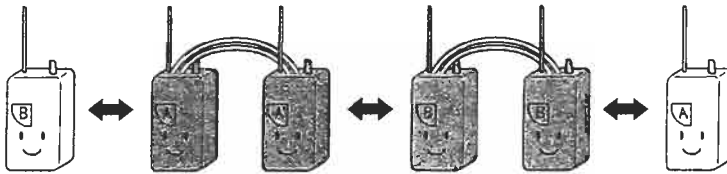
送信時にPTTボタンを押して話をします。通話エリア内であれば、チャンネルなどが合致すれば全て受信できます。
使用チャンネル：L1～9、b1～11

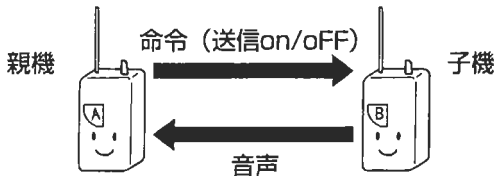
■モード2：複信無線モード
(P.24)

電話感覚で話をしながら聞くこともできるモードです。基本的には1対1の交信ですが、ループ機能設定時は、通話エリア内の第三者が通話を聞くことができます。
使用チャンネル：L10～18、b12～29

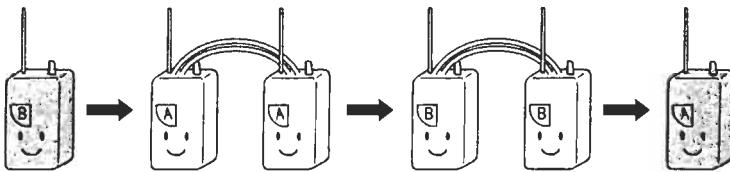
■モード3：半複信中継器使用無線モード (P.26)

中継器を使って、通常の交信ではつながらない相手と、モード1（単信無線モード）のように交信するモードです。
使用チャンネル：L10～18、b12～29

■モード4：複信連結中継機使用無線モード (P.27)

中継器を使って、通常の交信ではつながらない相手と、モード2（複信無線モード）のように交信するモードです。
使用チャンネル：L10～18、b12～29

■モード5：半複信中継器モード（P.29）

モード3の中継器として使用するモードです。
使用チャンネル：L10～18、b12～29

■モード6：連結中継器モード（P.30）

モード4、8の中継器として使用するモードです。中継器は多段連結が可能で、遠距離の通話に利用できます。
使用チャンネル：L10～18、b12～29

■モード7：ケアモニターモード（P.31）

一方のトランシーバー（親機）から他方のトランシーバー（子機）の送信を制御します。乳幼児や病人の監視などに活用できます。
使用チャンネル：L10～18、b12～29

■モード8：半複信連結中継器使用無線モード（P.32）

通常の交信ではつながらない相手と中継器を多段連結して、モード1（単信無線モード）のように交信するモードです。
使用チャンネル：L10～18、b12～29

各モードの操作方法

モード別に操作方法を説明します。

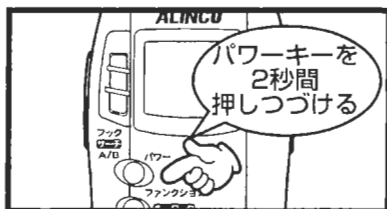
モード１：単信無線モード

もっとも基本的な交信モードです。

2

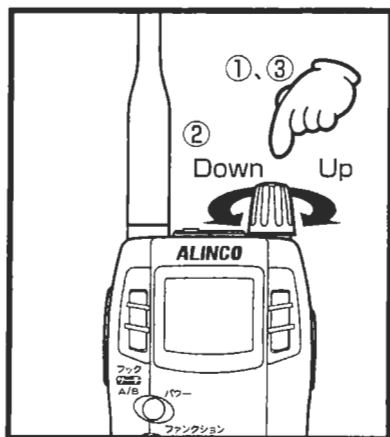
❶ 電源を入れる

パワーキーを約2秒押すと電源が入ります。

電源を切るときは、もう１度パワーキーを約２秒押します。

❷ 音量を調整する

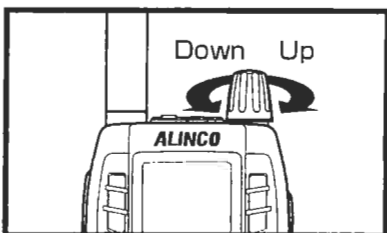
①ダイヤルスイッチを１回押します。ディスプレイに「voL－15」と表示されます。

②ダイヤルを回して音量を調整します。０～３０の３１段階で調整できます。数字が大きくなるほど音量が大きくなります。

③ダイヤルスイッチを２回押すか、そのままの状態で５秒たつと通常モードに戻ります。

> **メモ** モード2、モード4で外部イヤホンを使用しない場合は0～5の6段階の調整になります。電話機のように耳に当ててお使いください。

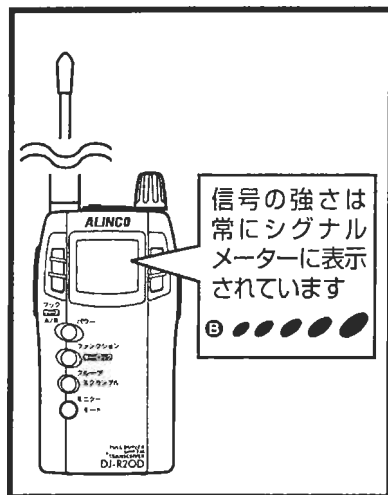
❸ チャンネル番号を合わせる

ダイヤルを回し相手と同じチャンネル番号に合わせます

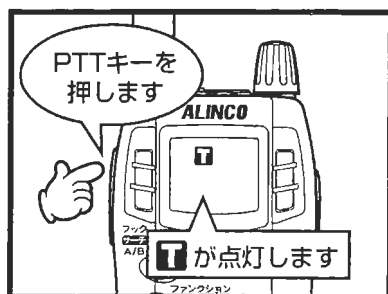
> **メモ** 各チャンネル番号の周波数はP.48～49をご覧下さい。

❹ 受信すると･･･

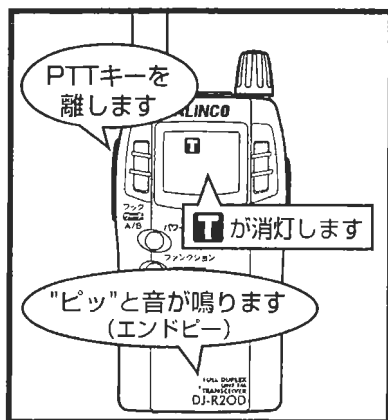
電源を入れると、受信待ち受けが始まります。
信号を受信するとスピーカーから相手の声が聞こえてきます。

■相手の声が途切れる場合
スケルチレベルを変更するか（P.47）、モニターキーを押してみてください。
聞きやすくなることがあります。
モニターキーを押すと Ⓑ が点灯します。もう一度押すと消灯します。

メモ　フリーチャンネルサーチ中は動作しません。

❺ 送信する

信号を受信していないことを確認してPTTキーを押します。
ディスプレイに 🅃 が点灯したら、マイク部から5cm位離してお話しください。

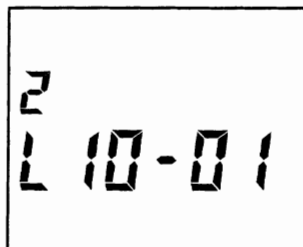
メモ　送信中、シグナルメーターはHI設定時は5個、Lo設定時は2個点灯します。

❻ 送信が終わったら

PTTキーを離すと送信を終えて、受信待ち受け状態になります。
PTTキーを離した時、"ピッ"という音が鳴ります。（エンドピー）（P.43）
これは送信が終わったことを知らせる合図です。受信側はこの音が聞こえると、次の送信ができます。

……… モード2：複信無線モード ………

電話感覚で交信できるモードです。
グループ全員に呼びかけ、一番早くフックキーを押した人と通話します。

・ループ機能をONにしておくと交信している2人以外の人も2人の会話を聞くことができます。（P.46）
モード2にすると自動的に複信チャンネル（レジャータイプL10CH以降、ビジネスタイプb12CH以降）へ移動します。初期値はL10です。

❶ モード番号を設定する

①ファンクションキーを押します。
②🅵点灯中にモードキーを押します。
③ダイヤルを回し、モード番号を2に設定します。
④PTTキーを押します。

❷ チャンネル番号・グループ番号を設定する

チャンネル番号とグループ番号（P.34）を合わせます。

❸ 呼び出すときは

PTTキーを押すと10秒間「プルルルル」という音がします。
相手からの返事を待ちます。
途中で呼び出しを止めたい時は、フックキーを押します。

❹ 呼ばれたときは

「プルルルル」という呼び出し音が10秒間鳴ります。
呼び出し音が鳴っている間にフックキーを押します。
通話状態になります。（呼ばれたときは、通話エリア内にいるグループの中で一番早くフックキーを押した人が通話出来ます。）
無線機は、電話機のように耳にあててお話しください。

❺ 通話を終えるには

フックキーを押します。

❻ オプションのヘッドセット（EME-12A/13A/15A）を使用しているときは…

ヘッドセット側のPTTキーを押して、呼び出し・応答・通話の終了を繰り返します。

ヘッドセットもしくはイヤホンを使用している場合、音量調整は0～30の31段階となります。

■第三者が会話を聞く（ループ機能）

ループ機能（P.46）をONにすると、直接会話に参加していない第三者が会話を聞くことができます。ただし自分から発信することはできません。

最初に呼び出しをする無線機がループ機能をONにしないと、第三者は会話を聞けません。

通話モード２　同時通話の「強制タイプ」設定について

DJ-R20D は、携帯電話のように呼び出し音を鳴らしてから通話を始める標準方式の他、「強制タイプ」が設定できます。この方式では、送信ボタン PTT を押すと同時に呼び出し音無しで音声信号が送信され、これに応答すると、お互いが送信している間そのまま同時通話で通信が行えます。ベル音の代わりに音声で「ＸＸさん、居ますか？」のように通話したい相手を直接呼び出せるほか、交互通話と同様に PTT ボタンが押されている間は送信を続けるので、雑音や通話場所の悪条件等で通信状態が悪くなっても通話自体は切断されず、スムーズに同時通話が行えます。（ただし 3 分制限でタイムアウトした場合は、一度送信を停止して、2 秒後に自動的に送信を再開します。）

注意：ＤＪ－Ｒ２０Ｄを強制タイプに設定変更した場合、交互通話中継器へのアクセスなど、一部の機能が使えなくなります。下記以外の通話モードに設定を変更される場合は、一度標準方式に戻した後で操作を行う必要があります。
[強制タイプ設定のままでモード変更操作をして、お使いになれる通話モード]
モード１：中継器を介さない直接交互通話 /モード２：強制タイプでの同時通話 / モード３：中継器を介して行う強制タイプの同時通話

同時通話で強制タイプを使用するには、下記の設定を行います。

* 設定を始める前に、キーロックをお使いであれば解除し（ファンクションボタンをしばらく押してカギのマークを消す)、イヤホンマイクなどは取り外してください。

1：説明書 P.22 を参照してモード 1，単信無線モードを選びます。
2：ダイアルツマミを 1 度押し下げ、ダイアルを回して uoL の後ろの数字を"9"にあわせます。
3: uoL-9 が出ている間にもう 1 回ダイアルを押し下げ、ダイアルを回して点滅しているグループ番号を"10"にあわせます。設定後、点滅している番号 ” 10 ” が点灯に変わるまで数秒待ちます。
4：ファンクションボタンを 2 秒以上押しつづけると、カギのマークがディスプレイに表示されます。その後、下記の順でボタンを押してください。
　フックキー2 回＞モニターキー1 回＞ファンクションキー1 回＞ダイアルツマミを 2 回押し下げる

5:正しく操作ができていると、ここで自動的に電源が切れます。電源を入れるとモード 2 の同時通話は強制タイプで動作するようになっていますので、説明書 P.24、モード 2：複信無線モードを参照して同時通話の設定をします。イヤホンマイクをお使いの場合はそれを接続して、下記のアクセサリーの使用方法をご覧下さい。
イヤホンマイクを使わないで通話するには、PTT キーを押します。応答する側も PTT を押せば、お互いが PTT を押している間、同時通話で通信できます。一人が PTT を放しても、相手が話している間はその声が聞こえます。

※標準の同時通話方式に戻す場合は、上記の操作を繰り返し行ってください。リセットでは、強制タイプは解除できません。
※どちらの同時通話方式で動作しているかを確認するには、モード２の同時通話モードで PTT ボタンを押します。「プルルルル」と呼び出し音が鳴る場合は標準、音が出ず黒地にＴのマークがディスプレイに表示されたら強制タイプに設定されています。

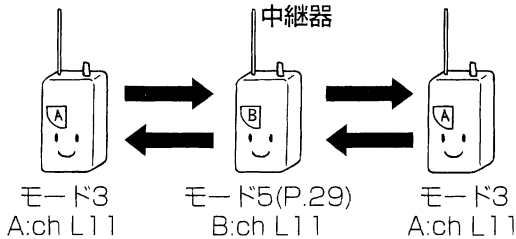
アクセサリーの使用方法：

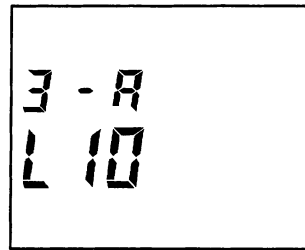
Ａ：EME-21A,EME-29A 等のイヤホンマイクに搭載されている PTT-LOCK スイッチを使うと、３分に１度、２秒間タイムアウトする以外は連続してハンズフリーで通話ができます。この設定の場合、常に電波は送信されています。
Ｂ：EME-12,13,15A 等、VOX 機能付きヘッドセットでは、コントロールボックスの切り替えを VOX 側にしてください。話すと送信、黙ると受信、お互いが同時に声を出している間は送受信を一緒に行う同時通話、と自動的に動作が切り替わります。通話が終わったときに鳴るスタンバイ時の"ピッ"音が煩わしい場合は、セットモードでビープ音を"0"に設定してください。（説明書 P.39 セットモードのメニュー、P.41 のビープ音量設定)。尚、標準の同時通話モードでは VOX 側に設定しているとヘッドセットは使えませんのでご注意ください。
Ｃ：EME-19A では以下のように操作します。
＊　呼び出しと応答：EME-19A のコントロールボックス上の黒いボタンを押します。上記のＡ同様、PTT ロックが掛かり、ハンズフリーで通話できます。
＊　通話の終了：黒いボタンを再度押してロックを解除します。
尚、白いボタンは無線機の PTT と同様に動作します。（押している間は送信、指を放すと受信します。ロックは掛かりません）

注意：イヤホンマイクやヘッドセットなどのアクセサリーを接続した状態で、PTT LOCK 又は VOX を解除しないで電源を入れるとディスプレイが全画面表示になり、一切の操作ができなくなります。このときはアクセサリーのプラグを一度抜いてから電源を入れるか、PTT LOCK や VOX を解除してから電源を入れなおしてください。

モード3：半複信中継器使用無線モード

通常の交信では直接交信できない場所にいる相手と中継器を介して無線機のように交信するモードです。

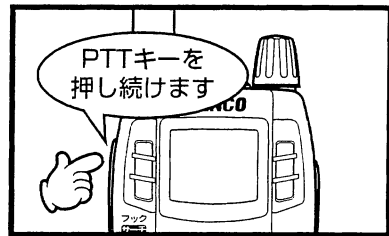
2

❶ モード番号を合わせる

①ファンクションキーを押します。
②F 点灯中にモードキーを押します。
③ダイヤルを回し、モード番号を3に設定します。
④PTTキーを押します。

❷ チャンネル番号・周波数帯を設定する

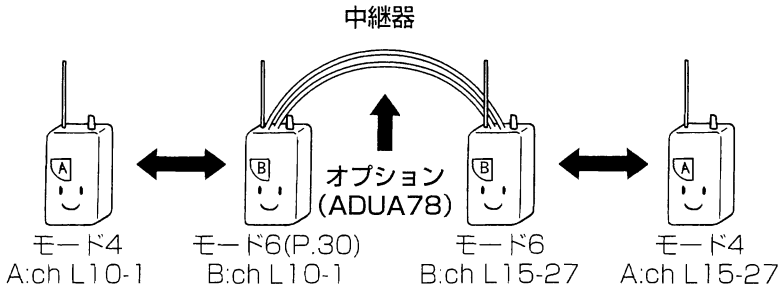
①ファンクションキーを押します。
②F 点灯中にA/Bキーを押して、A/Bを切り替えます。
チャンネル番号は中継器と同一にしますが、周波数帯は中継器と逆（中継器がAならB、BならA）に設定します。

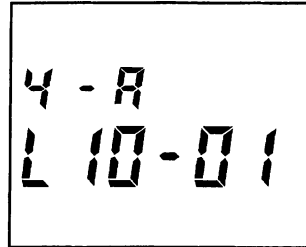
❸ 交信する

PTTキーを押し続けます。
スピーカーから「ツツ」という音のあとに「ピピッ」という音がします。
これで中継器が使用できます。

❹ 通話する

PTTキーを押しながらマイク部に向かってお話しください。
PTTキーを離します。相手が送信するとスピーカーより声が聞こえます。

モード4：複信連結中継器使用無線モード

通常の交信では直接交信できない相手と、中継器を介して電話機のように交信するモードです。

❶ モード番号を合わせる

①ファンクションキーを押します。
②点灯中にモードキーを押します。
③ダイヤルを回し、モード番号を4に設定します。
④PTTキーを押します。

❷ チャンネル番号・グループ番号・周波数帯を設定する

チャンネル番号とグループ番号は隣接する中継器と同一にします。周波数帯は隣接する中継器と逆（中継器がAならB、BならA）に設定します。

❸ 呼び出すときは

PTTキーを押すと10秒間「プルルル」という音がします。
相手からの返事を待ちます。
途中で呼び出しを止めたい時は、フックキーを押します。

❹ 呼ばれたときは

「プルルル」という呼び出し音が10秒間鳴ります。呼び出し音が鳴っている間にフックキーを押すと、通話状態になります。
無線機は、電話のように耳にあててお話しください。

❺ 話を終えるには

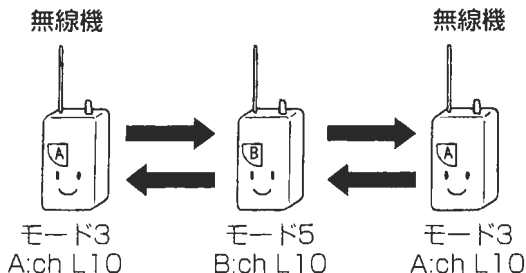
フックキーを押します。

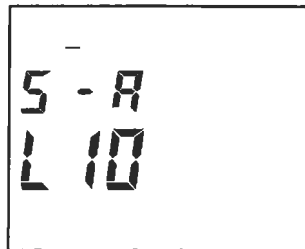
❻ オプションのヘッドセット（EME-12A/13A/15A）を使用しているときは…

ヘッドセット側のPTTキーを押して、呼び出し・応答・通話の終了を繰り返します。

ヘッドセットもしくはイヤホンを使用している場合、音量調整は0～30の31段階となります。

モード5：半複信中継器モード

モード３の中継器として使用するモードです。モード５にセットすると、自動的にバッテリーセーブ機能が解除されます（セットモードで有効にすることもできます)。

❶ モード番号を合わせる

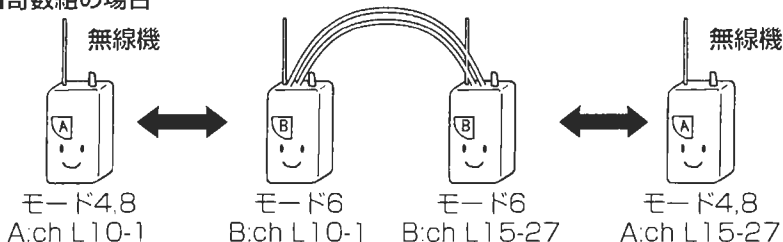
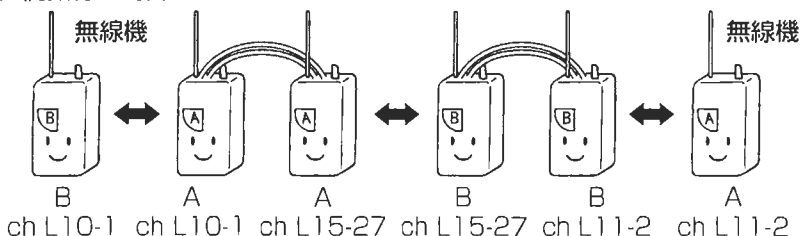
①ファンクションキーを押します。
②Ｆ点灯中にモードキーを押します。
③ダイヤルを回し、モード番号を５に設定します。
④PTTキーを押します。

❷ チャンネル番号・周波数帯を設定する

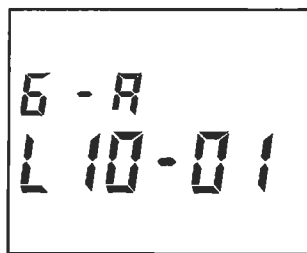
チャンネル番号は無線機と同一にしますが、周波数帯は無線機と逆（無線機がAならB、BならA）に設定します。

中継器は見通しのよい場所に設置してください。

モード５では中継器として動作するため、通常の交信はできません。

モード6：連結中継器モード

オプションのレピーターケーブル（ADUA78）を使用してモード４とモード８の中継器として使用するモードです。

■偶数組の場合

❶ モード番号を合わせる

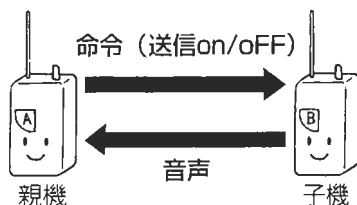
①ファンクションキーを押します。
②F点灯中にモードキーを押します。
③ダイヤルを回し、モード番号を６に設定します。
④PTTキーを押します。

❷ チャンネル番号・グループ番号・周波数帯を設定する

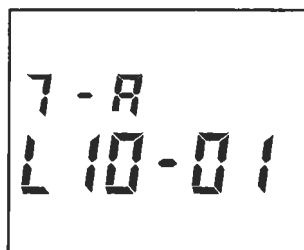
レピーターケーブルで接続している中継器どうしは、チャンネル番号・グループ番号を異なる番号に、周波数帯を同じに設定します。
逆に隣接している無線機および中継器に対しては、チャンネル番号・グループ番号は同じに、周波数帯は逆（隣接する無線機および中継器がAならB、BならA）に設定します。

メモ　見通しのよい場所に設置してください。

・モード６では中継器として動作するため、通常の交信はできません。
・レピーターケーブル（ADUA78）の抜き差しは、モード６で行ってください。他のモードでレピーターケーブルは使用しないでください。

モード7：ケアモニターモード

２台のDJ-R20Dを使用し、片方のDJ-R20D(親機)でもう一方のDJ-R20D(子機)の送信をコントロールするモードです。

❶ モード番号を合わせる

①ファンクションキーを押します。
② F 点灯中にモードキーを押します。
③ダイヤルを回し、モード番号を７に設定します。
④PTTキーを押します。

❷ 周波数帯・チャンネル番号・グループ番号を設定する

周波数帯は親機側を「A」、子機側を「B」に設定します。チャンネル番号とグループ番号は、それぞれ親機と子機で同じ番号に合わせます。

❸ 送信する

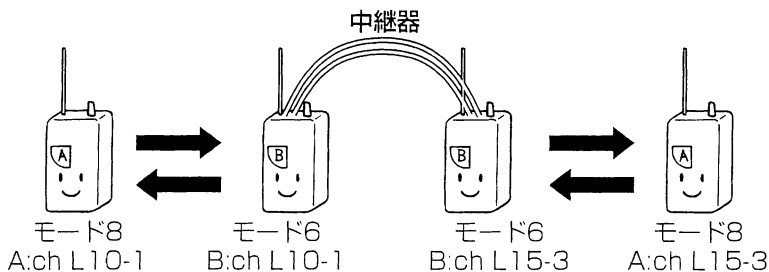
親機側のPTTキーを押し、すぐに離します。
約２秒後に子機の送信が開始されます。

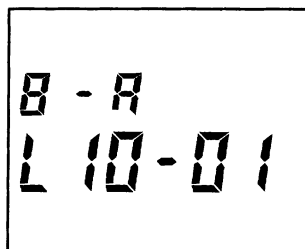
❹ 送信を止める

もう一度親機側のPTTキーを押し、すぐに離します。
約２秒後に子機の送信が終了します。

メモ　子機側から送信を途中で止めたい場合は、フックキーを押すと送信は止まります。

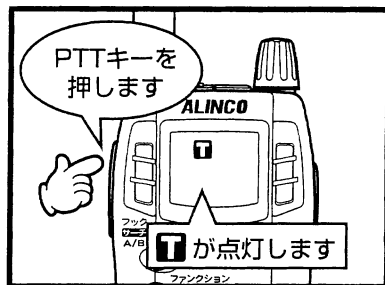
モード8：半複信連結中継器使用無線モード

通常の交信では直接交信できない相手と、中継器を介して、無線機のように交信するモードです。

❶ モード番号を合わせる

①ファンクションキーを押します。
② F 点灯中にモードキーを押します。
③ダイヤルを回し、モード番号を8に設定します。
④PTTキーを押します。

❷ チャンネル番号・グループ番号・周波数帯を設定する

チャンネル番号とグループ番号は隣接する中継器と同一にします。周波数帯は隣接する中継器と逆（中継器がAならB、BならA）に設定します。

❸ 通話する

PTTキーを押しながらマイク部に向かってお話しください
PTTキーを離します。相手が送信するとスピーカより声が聞こえます。

便利な機能

本機の使用するときに便利な機能を紹介します。

交信モード別設定可能機能一覧

各モードで使用できる機能等を紹介します。モードによっては、必ず使用しなければならない機能もありますので、ご注意ください。

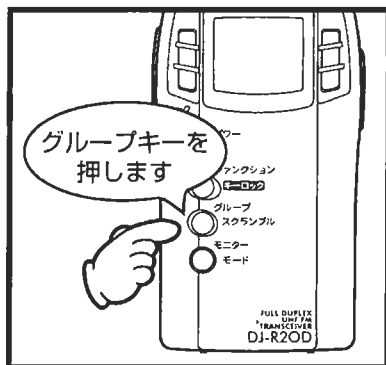
モード	モード名	チャンネル(P.18)	グループトーク(P.34)	スクランブルトーク(P.35)	フリーチャンネルサーチ(P.36)	連続送信設定(P.41)	アラーム(P.43)	ベル(P.42)	ハングアップタイマー(P.44)	ループ(P.46)	LCD消灯(P.47)
モード1	単信無線モード(P.22)	L1~9 b1~11	○	○	○	×	×	○	×	×	×
モード2	複信無線モード(P.24)	L10~18 b12~b29	◎	×	×	△	×	×	×	○	○
モード3	半複信中継器使用無線モード(P.26)	L10~18 b12~b29	○	○	×	△	×	×	×	×	×
モード4	複信連結中継器使用無線モード(P.27)	L10~18 b12~b29	◎	×	×	△	×	×	×	○	○
モード5	半複信中継器モード(P.29)	L10~18 b12~b29	○	×	×	△	○	×	○	×	○
モード6	連結中継器モード(P.30)	L10~18 b12~b29	◎	×	×	△	×	×	×	×	○
モード7	ケアモニターモード(P.31)	L10~18 b12~b29	◎	×	×	△	×	×	×	×	×
モード8	半複信連結中継器使用無線モード(P.32)	L10~18 b12~b29	◎	○	×	△	×	×	×	×	×

◎　設定が必ず必要です
○　設定できます
△　チャンネルがb12~b29時に設定できます
×　設定できません

グループトークのしかた

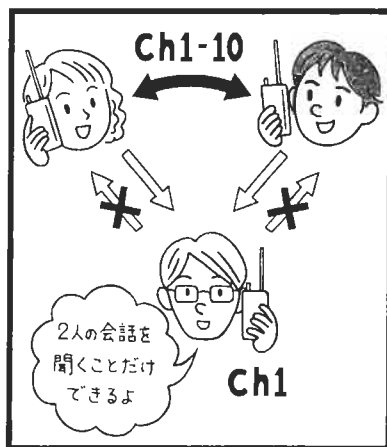
同じグループの人とだけ交信したい時はグループトークを使います。

❶ グループトークモードにする

グループキーを押して、グループトーク
モードにします。

❷ グループ番号を合わせる

①ダイヤルスイッチを2回押します。
②ダイヤルを回して相手と同じグループ
　番号を1～50の中から合わせます。
③PTTキーを押します。

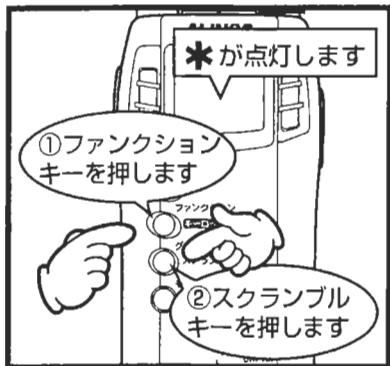
❸ 送信と受信

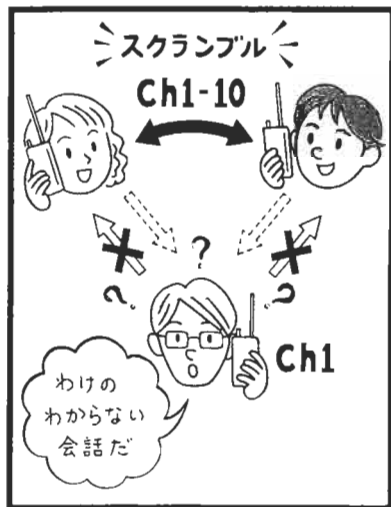
P.20、21と同じ操作で送信、受信します。
同じチャンネル、同じグループ番号の人同士のみ交信できます。ただし、グループトークにしていない同じチャンネルの人には聞かれています。

注意
- グループ、スクランブルトーク中も、相手の声は聞こえなくても同じチャンネルの電波は受信しています。
- 他のグループがそのチャンネルを近くで使っていると、送信できないことがあります。

スクランブルトークのしかた

スクランブルトークにすると、秘話機能が働き、他の人には会話の内容は理解できなくなります。

❶ スクランブルトークにする

①ファンクションキーを押します。
②F の点灯を確認して、スクランブルキーを押して、スクランブルモードにします。
＊が点灯します。

❷ 送信と受信

P.20、21と同じ操作で送信、受信します。
同じチャンネル、同じグループ番号でスクランブルトークにしている人同士のみ交信できます。スクランブル交信にしていない人には、声は聞こえますが、内容はわかりません。

注意
・話をする相手もスクランブルトークにしていないと、会話の内容は理解できません。
・モード2、モード4、モード5、モード6、モード7ではこの機能は使用できません。

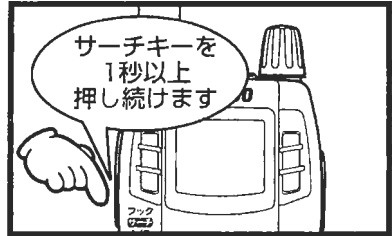
空いているチャンネルを選択する
(フリーチャンネルサーチ)

チャンネルを次々と切り替えながら、空いているチャンネルを探して交信できる機能です。(モード1のみ)

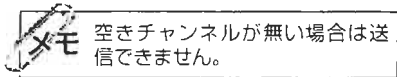
❶ グループトークモードにする

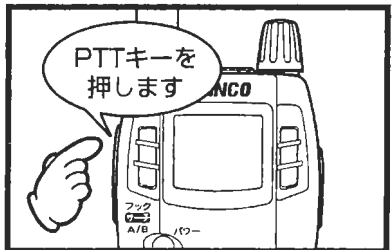
❷ お互いのグループ番号を合わせる

❸ フリーチャンネルサーチを開始する

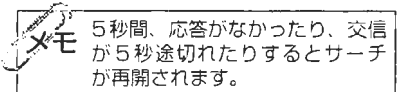
サーチキーを1秒以上押し続けると、フリーチャンネルサーチが開始されます。

❹ 相手を呼び出すには

PTTキーを押してすぐ離します。空きチャンネルを探して、そのチャンネルで止まり、5秒間送信状態となり、相手を呼び出します。

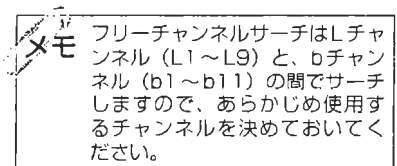
メモ 空きチャンネルが無い場合は送信できません。

❺ 相手から応答音が返ってくると

PTTキーを押して送信します。

❻ サーチ中に信号を受信すると

受信したチャンネルで止まり、しばらくすると電子音が鳴ります。その後、相手からの信号を受信しますので応答して下さい。

メモ 5秒間、応答がなかったり、交信が5秒途切れたりするとサーチが再開されます。

❼ フリーチャンネルサーチを終了する

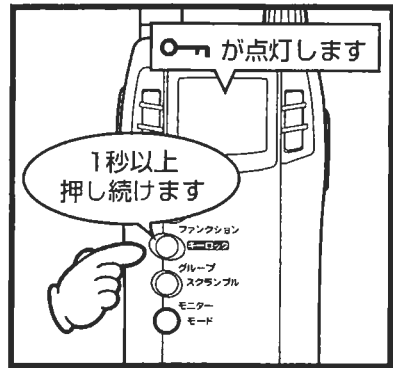
もう一度サーチキーを1秒以上押し続けるとフリーチャンネルサーチは終了します。

メモ フリーチャンネルサーチはLチャンネル(L1～L9)と、bチャンネル(b1～b11)の間でサーチしますので、あらかじめ使用するチャンネルを決めておいてください。

キーロック

キーロックしておくと、誤って設定を変えてしまうことを防げます。

❶ キーロックする

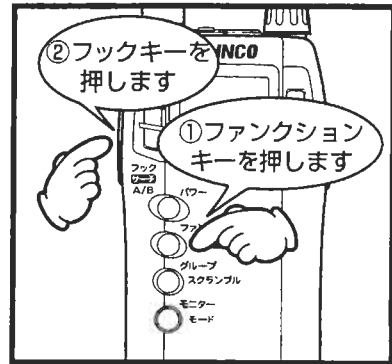
ファンクションキーを1秒以上押し続けます。
O-n マークが表示されます。

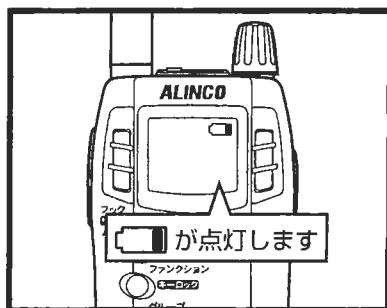
O-n マーク点灯中は以下の操作以外は無効になります。
電源ON/OFF、モニター、送信、音量設定、キーロック解除

3

周波数帯設定

モード3、4、5、6、7、8で使用する場合に設定します。

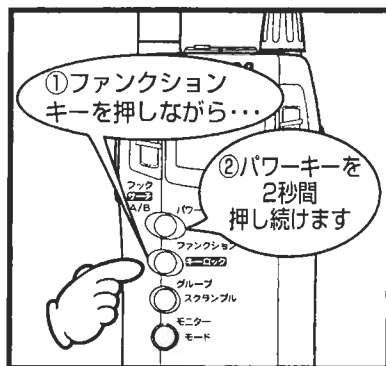
❶ 周波数帯を設定する

①ファンクションキーを押します。
②F が点灯しているのを確認したあと、フックキーを押して、A←→Bを切り替えます。

バッテリー警告機能

電池の残量が少なくなると、ディスプレイに電池マークが点灯します。電池マークが点灯するとすぐ使えなくなるので、新しい電池と交換してください。

リセット

リセットすると、工場出荷時の状態に戻ります。

❶ リセットするには

ファンクションキーを押しながら、電源を入れます。

セットモード

各種交信をより使いやすくするための機能です。

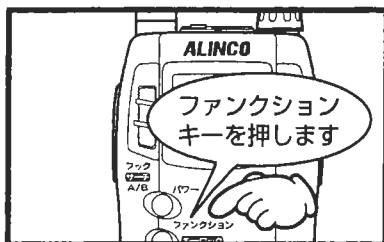
セットモード一覧

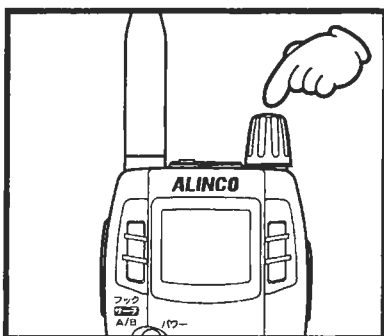
各種機能をより使いやすくするために、DJ-R20Dをカスタマイズする機能です。次の項目が設定できます。

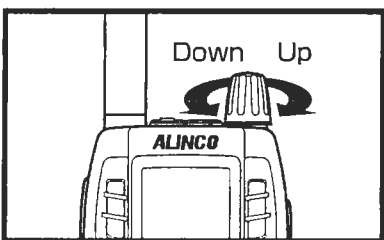
4

各項目の設定方法

セットモードは次の方法で設定します。

❶ ファンクションキーを押します。

❷ ダイヤルスイッチを押します。

セットモードに入り、項目が表示されます。

❸ ダイヤルスイッチを押して、設定する項目を選択します。

ダイヤルスイッチを押すごとに項目の表示が変わります。

❹ ダイヤルを回して設定値を変更します。

❺ PTTキーを押します。

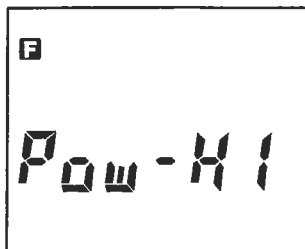
これで設定は完了です。

各種設定の詳細は次ページ以降をご参照ください。

連続送信設定

モード2～8のビジネスチャンネル（b12～29）設定時に、送信の出力を10mWから1mWに送信出力を抑えることにより、3分間の通話制限が解除され、連続通話が可能になります。
（モード1では連続送信はできません）

❶ 連続送信設定に合わせる

①[ファンクション]キーを押します。
② F 点灯中にダイヤルスイッチを1回押して、「Pow－HI」が表示されるのを確認します。

❷ 連続送信設定を切り替える

ダイヤルを回して連続送信(HI←→Lo)を切り替えます。
初期設定は［HI］です。
LOWパワー設定時「.」が点灯します。

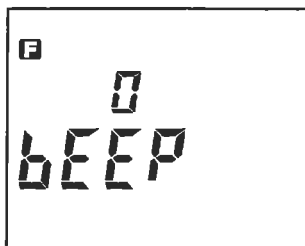
注意 通話距離が短くなりますので、連続送信が必要なとき以外はHIに設定してください。

メモ LOWパワー設定時、ビジネスタイプの複信チャンネル(b12～b29)は、3分制限なく、通話できます。

ビープ音量設定

本機から鳴るビープ音の音量を設定します。

❶ ビープ音量設定に合わせる

①[ファンクション]キーを押します。
② F 点灯中にダイヤルスイッチを2回押して、「bEEP」が表示されるのを確認します。

❷ ビープ音量を設定する

ダイヤルを回すとビープ音の音量が切り替わり、設定が変更されます。
ビープ音の音量は0～5の間で選択できます。
初期状態は3です。0に設定すると、すべてのビープ音が鳴らなくなります。

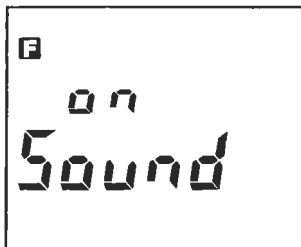
4

操作音機能

キー操作時の操作音のon／oFFを設定します。

❶ 操作音機能に合わせる

①[ファンクション]キーを押します。
②F点灯中にダイヤルスイッチを３回押して、「Sound」が表示されるのを確認します。

F
on
Sound

❷ 操作音機能を切り替える

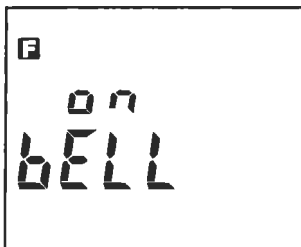
ダイヤルを回して、on／oFFを切り替えます。
初期状態はonです。

ベル機能

呼び出されたことを表示とベル音でお知らせする機能です。

メモ　ベル機能はモード１のみ有効です。

❶ ベル機能に合わせる

①[ファンクション]キーを押します。
②F点灯中にダイヤルスイッチを４回押して、「bELL」が表示されるのを確認します。

F
❷ ベル機能を切り替える

ダイヤルを回して、on／oFFを切り替えます。初期状態はoFFです。マーク点灯中に呼び出されるとマークが点滅し呼び出し音が鳴ります。

エンドピー機能

PTTキーを離したときの"ピッ"音のon／oFFの設定をします。

メモ　エンドピー機能はモード1、3、8でのみ有効です。

❶ エンドピー機能に合わせる

①[ファンクション]キーを押します。
②F点灯中にダイヤルスイッチを5回押して、「EndP」が表示されるのを確認します。

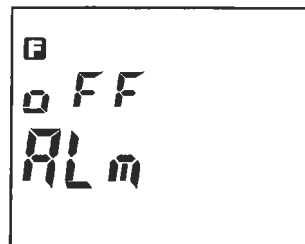
❷ エンドピー機能を切り替える

ダイヤルを回して、on／oFFを切り替えます。
初期状態はonです。

アラーム機能

モード5で約2秒間電波が消えると（ハングアップタイマーが0秒の場合）中継動作が終わり初期状態に戻ってしまいますが、この機能をonにすると電波が消えてからも約8秒間は中継動作を保持します。

❶ アラーム機能に合わせる

①[ファンクション]キーを押します。
②F点灯中にダイヤルスイッチを6回押して、「ALm」が表示されるのを確認します。

❷ アラーム機能を切り替える

ダイヤルを回してアラーム機能のon／oFFを切り替えます。
初期状態はoFFです。

❸ アラーム音により中継動作の終了を知らせます。

メモ　アラーム機能はモード5のみ有効です。

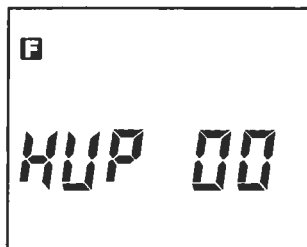
4

ハングアップタイマー機能

信号が途切れても、一定時間送信を続ける機能です。

メモ　ハングアップタイマー機能はモード5のみ有効です。

❶ ハングアップタイマー機能に合わせる

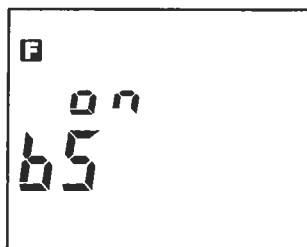
①[ファンクション]キーを押します。
②F 点灯中にダイヤルスイッチを7回押して、「HUP」が表示されるのを確認します。

❷ ハングアップタイマーを切り替える

ダイヤルを回してハングアップ時間を変更します。
ハングアップ時間は0秒、0.5秒、1秒、2秒から選択できます。
初期設定は0秒です。

バッテリーセーブ機能

待ち受け状態が5秒以上続くと、内部電源を定期的にon／oFFさせて電池の消費を少なくする機能です。

❶ バッテリーセーブ機能に合わせる

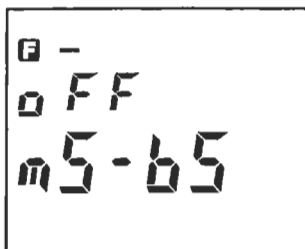
①[ファンクション]キーを押します。
②F 点灯中にダイヤルスイッチを8回押して、「bS」が表示されるのを確認します。

❷ バッテリーセーブ機能を切り替える

ダイヤルを回して、on／oFFを切り替えます。
初期設定はonです。
バッテリー機能がoFF設定時は「—」が点灯します。

・・・・・・・・・ バッテリーセーブ機能(モード5に設定時のみ) ・・・・・・・・・

待ち受け状態が５秒以上続くと、内部電源を定期的にon／oFFさせて電池の消費を少なくする機能です。

❶ バッテリーセーブ機能に合わせる

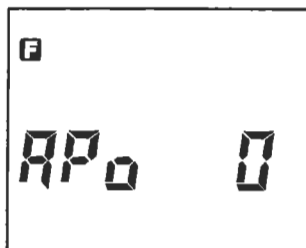
①[ファンクション]キーを押します。
②F点灯中にダイヤルスイッチを９回押して、「m5－bS」が表示されるのを確認します。

❷ バッテリーセーブ機能を切り替える

ダイヤルを回して、on／oFFを切り替えます。
初期設定はoFFです。
バッテリー機能がoFF設定時は「—」が点灯します。

・・・・・・・・・ オートパワーオフ機能 ・・・・・・・・・

電源スイッチの切り忘れを防ぐ機能です。APOが設定されているときに無操作の状態が設定時間続くと、ビープ音が鳴り、自動的に本機の電源が切れます。

❶ オートパワーオフ機能に合わせる

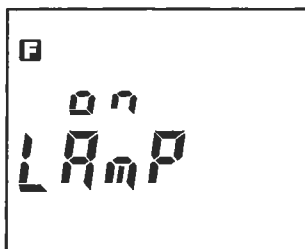
①[ファンクション]キーを押します。
②F点灯中にダイヤルスイッチを９回（モード５では10回）押して、「APo」が表示されるのを確認します。

❷ オートパワーオフ機能を切り替える

ダイヤルを回してAPO時間を変更します。
APO時間は0分、30分、60分、90分から選択できます。
初期設定は[0]です。

ランプ機能

ディスプレイ照明のon／oFFを設定します。on設定時は、いずれかのキー操作をするとディスプレイの照明が自動的に点灯し、無操作状態が5秒間続くと自動的に消灯します。

❶ ランプ機能に合わせる

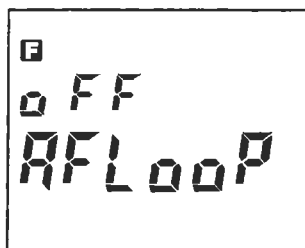
①[ファンクション]キーを押します。
②F点灯中にダイヤルスイッチを10回（モード5では11回）押して、「LAmP」が表示されるのを確認します。

❷ ランプ機能を切り替える

ダイヤルを回して、on／oFFを切り替えます。
初期設定はonです。

ループ機能

モード2、4で、交信している2人以外の人も2人の会話が聞こえる様になる機能です。

❶ ループ機能に合わせる

①[ファンクション]キーを押します。
②F点灯中にダイヤルスイッチを11回（モード5では12回）押して、「AFLooP」が表示されるのを確認します。

❷ ループ機能を切り替える

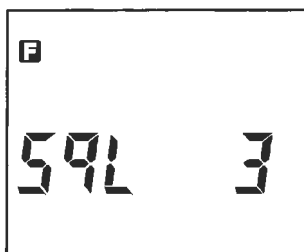
ダイヤルを回して、on／oFFを切り替えます。
初期状態はoFFです。

モード4では片方の機器のみにループ機能をセットしてください。両方の機器にループ機能をセットすると、ハウリングが発生します。

スケルチレベル設定

受信時信号のないときの"ザー"という雑音を消す機能です。

❶ スケルチレベル設定に合わせる

①[ファンクション]キーを押します。
②F点灯中にダイヤルスイッチを12回（モード5では13回）押して、「SqL」が表示されるのを確認します。

❷ スケルチレベルを切り替える

ダイヤルを回してスケルチレベルを変更します。
スケルチのレベルは1～5の間で設定します。
初期設定は3です。

4

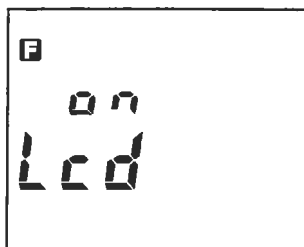
LCD消灯機能

この機能をOFFにするとモード2、4、5、6で同時通話状態になった時、LCDの表示を消灯させる機能です。

メモ 受信音にノイズが混じっている時などにこの機能を使用するとノイズが無くなる事があります。

❶ LCD消灯機能に合わせる

F
on
Lcd

①[ファンクション]キーを押します。
②F点灯中にダイヤルスイッチを13回（モード5では14回）押して、「Lcd」が表示されるのを確認します。

❷ LCD消灯機能を切り替える

ダイヤルを回して、on／oFFを切り替えます。
初期状態はonです。

付　録

本製品の補足事項を記載しています。

レジャーチャンネル

1.	422.2000
2.	422.2125
3.	422.2250
4.	422.2375
5.	422.2500
6.	422.2625
7.	422.2750
8.	422.2875
9.	422.3000

	B	A
10.	421.8125	440.2625
11.	421.8250	440.2750
12.	421.8375	440.2875
13.	421.8500	440.3000
14.	421.8625	440.3125
15.	421.8750	440.3250
16.	421.8875	440.3375
17.	421.9000	440.3500
18.	421.9125	440.3625

(MHz)

ビジネスチャンネル

1.	422.0500
2.	422.0625
3.	422.0750
4.	422.0875
5.	422.1000
6.	422.1125
7.	422.1250
8.	422.1375
9.	422.1500
10.	422.1625
11.	422.1750

	B	A
12.	421.5750	440.0250
13.	421.5875	440.0375
14.	421.6000	440.0500
15.	421.6125	440.0625
16.	421.6250	440.0750
17.	421.6375	440.0875
18.	421.6500	440.1000
19.	421.6625	440.1125
20.	421.6750	440.1250
21.	421.6875	440.1375
22.	421.7000	440.1500
23.	421.7125	440.1625
24.	421.7250	440.1750
25.	421.7375	440.1875
26.	421.7500	440.2000
27.	421.7625	440.2125
28.	421.7750	440.2250
29.	421.7875	440.2375

(MHz)

オプション一覧

本製品のオプション製品の一覧です。

ADUA78	レピーターケーブル
EBP-52N	ニッケル水素バッテリーパック（3.6V 500mAh）
EBP-53N	ニッケル水素バッテリーパック（6.0V 500mAh）
EBP-54N	ニッケル水素バッテリーパック（3.6V 1500mAh）
EDC-36	フィルター付きシガーライターケーブル（DC12V系）
EDC-37	基地局用DCケーブル（DC12V系）
EDC-43	シガーライターケーブル（DC12V系）
EDC-92	簡易充電器（ウォールチャージャー）
EDC-105	置型簡易スタンド
※ EMS-9	スピーカーマイク
EME-6	プチ型イヤホン
EME-12A	VOX付きヘッドセット（ヘッドホンタイプ）
EME-13A	VOX付きヘッドセット（インナータイプ）
EME-15A	VOX付きタイピンマイク
EME-19A	ヘッドセット（ヘッドホンタイプ）
※ EME-20	イヤホンマイク
ESC-37	ソフトケース

※印は複信通信モードでは使用できません。
複信通信モードではEME-12A/EME-13A/EME-15Aを使用してください（単信モードでも兼用で使用できます）。

◆必ずEDC-92とEDC-105をセットでお使いください。

EME-19Aをモード2（複信無線モード）でご使用になる場合は、操作方法がEME-12A/13A/15Aと異なります。

呼び出し	黒いボタンをオンにします。
応答	黒いボタンをオンにします。
通話の終了	黒いボタンをオフにし、白いボタンを押します。

通話していないときは、黒いボタンをオフにし、次の呼び出しを待ちます。

5

故障とお考えになる前に

本製品が故障かなと思ったら、まずこちらをお読みください。

症状	原因	処理
電源を入れても何も表示しない。	電池の入れ方が違う。	電池を正しく入れ直してください。
	電池が消耗している。	乾電池をご使用の場合は、新しい乾電池に交換してください。バッテリーパックをご使用の場合は充電してください。
スピーカーから音が出ない。	相手とチャンネルが違う。	チャンネルを合わせてください。チャンネルがわからないときは、フリーチャンネルサーチで呼び出されるのを待ってください。
受信しない。	グループ番号が違う。	グループ番号を合わせてください。
	相手と距離が離れすぎている。	交信距離を目安に交信してください。
	音量設定を「0」にしている。	音量設定を適当な位置に合わせてください。
	PTTスイッチを押して送信中である。	PTTスイッチを離してください。
送信できない。	信号を受信している。	信号がなくなるのを待ってから送信するか、チャンネルを変えてください。
	交信制限時間を超過している。	PTTスイッチを離し、2秒たってから、再度送信してください。
	PTTスイッチを押しながら電源を入れた。	PTTスイッチを押し直してください。
何も聞こえないのに送信できない。	同じチャンネルを別のグループが使っている。	フリーチャンネルサーチで空いているチャンネルを探してください。
どのキーを押しても設定が変わらない。	キーロック状態である。	キーロックを解除してください。
フリーチャンネルサーチがスタートしない。	モード1以外のモードになっている。	モード1に設定してください。

◆上記の処置を施してもなお異常が続く場合は、P.38を参照してリセット（初期化）してください。

◆電池が激しく消耗していると、まれに誤動作することがあります。動作がおかしい時にディスプレイの電池マークが点灯していたら、電池を交換してください。正常な状態に戻る場合があります。

定格DJ-R20D

送受信周波数	レジャーチャンネル	421.8125～421.9125MHz 422.2000～422.3000MHz 440.2625～440.3625MHz（12.5kHzステップ）
	ビジネスチャンネル	421.5750～421.7875MHz 422.0500～422.1750MHz 440.0250～440.2375MHz（12.5kHzステップ）
電波形式	F3E（FM）	
送信出力	10mW、1mW	
受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン	
受信感度	-6dBμ以下（12dB SINAD）	
音声出力	100mW以上	
消費電力	送信時	約75mA（10mA）、約65mA（1mA）
	受信定格出力時（50mW）	約100mA
	受信待ち受け時	約55mA
	バッテリーセーブ時（平均）	約27mA
通信方式	単信方式	
	半複信方式、複信方式	
定格電圧	DC3.6V～DC6.0V	
外部電圧端子	DC4.5V～DC16.0V	
動作温度範囲	-10℃～+50℃	
中間周波数	1st IF 21.7MHz2nd IF 450kHz	
寸法	56（W）×102（H）×28（D）mm（突起物含む）	
重量	180g（乾電池含む）	

5

通話モード２　同時通話の「強制タイプ」設定について

DJ-R20D は、携帯電話のように呼び出し音を鳴らしてから通話を始める標準方式の他、「強制タイプ」が設定できます。この方式では、送信ボタン PTT を押すと同時に呼び出し音無しで音声信号が送信され、これに応答すると、お互いが送信している間そのまま同時通話で通信が行えます。ベル音の代わりに音声で「ＸＸさん、居ますか？」のように通話したい相手を直接呼び出せるほか、交互通話と同様に PTT ボタンが押されている間は送信を続けるので、雑音や通話場所の悪条件等で通信状態が悪くなっても通話自体は切断されず、スムーズに同時通話が行えます。（ただし 3 分制限でタイムアウトした場合は、一度送信を停止して、2 秒後に自動的に送信を再開します。）

注意：ＤＪ－Ｒ２０Ｄを強制タイプに設定変更した場合、交互通話中継器へのアクセスなど、一部の機能が使えなくなります。下記以外の通話モードに設定を変更される場合は、一度標準方式に戻した後で操作を行う必要があります。
[強制タイプ設定のままでモード変更操作をして、お使いになれる通話モード]
モード１：中継器を介さない直接交互通話 /モード２：強制タイプでの同時通話 / モード３：中継器を介して行う強制タイプの同時通話

同時通話で強制タイプを使用するには、下記の設定を行います。

* 設定を始める前に、キーロックをお使いであれば解除し（ファンクションボタンをしばらく押してカギのマークを消す)、イヤホンマイクなどは取り外してください。

1：説明書 P.22 を参照してモード 1，単信無線モードを選びます。
2：ダイアルツマミを 1 度押し下げ、ダイアルを回して uoL の後ろの数字を"9"にあわせます。
3: uoL-9 が出ている間にもう 1 回ダイアルを押し下げ、ダイアルを回して点滅しているグループ番号を"10"にあわせます。設定後、点滅している番号”10”が点灯に変わるまで数秒待ちます。
4：ファンクションボタンを 2 秒以上押しつづけると、カギのマークがディスプレイに表示されます。その後、下記の順でボタンを押してください。

フックキー2 回＞モニターキー1 回＞ファンクションキー1 回＞ダイアルツマミを 2 回押し下げる

5:正しく操作ができていると、ここで自動的に電源が切れます。電源を入れるとモード 2 の同時通話は強制タイプで動作するようになっていますので、説明書 P.24、モード 2：複信無線モードを参照して同時通話の設定をします。イヤホンマイクをお使いの場合はそれを接続して、下記のアクセサリーの使用方法をご覧下さい。
イヤホンマイクを使わないで通話するには、PTT キーを押します。応答する側も PTT を押せば、お互いが PTT を押している間、同時通話で通信できます。一人が PTT を放しても、相手が話している間はその声が聞こえます。

※標準の同時通話方式に戻す場合は、上記の操作を繰り返し行ってください。リセットでは、強制タイプは解除できません。
※どちらの同時通話方式で動作しているかを確認するには、モード２の同時通話モードで PTT ボタンを押します。「プルルルル」と呼び出し音が鳴る場合は標準、音が出ず黒地にＴのマークがディスプレイに表示されたら強制タイプに設定されています。

アクセサリーの使用方法：

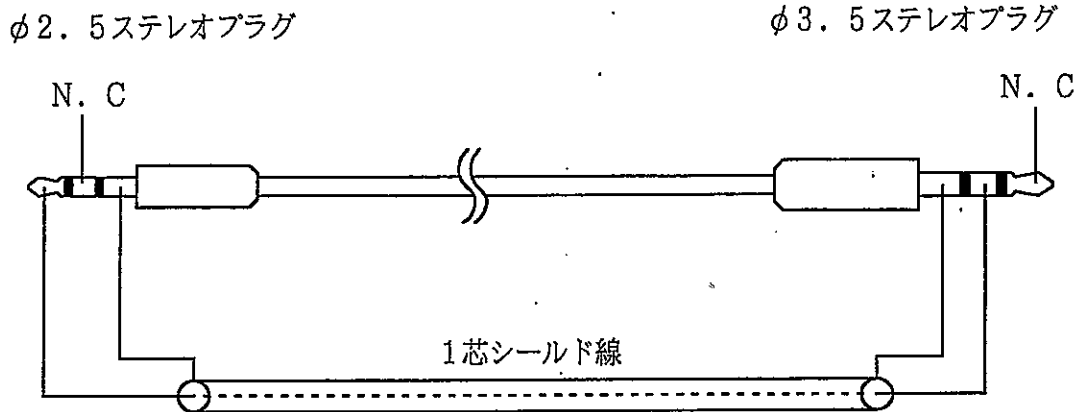
Ａ：EME-21A,EME-29A 等のイヤホンマイクに搭載されている PTT-LOCK スイッチを使うと、３分に１度、２秒間タイムアウトする以外は連続してハンズフリーで通話ができます。この設定の場合、常に電波は送信されています。
Ｂ：EME-12,13,15A 等、VOX 機能付きヘッドセットでは、コントロールボックスの切り替えを VOX 側にしてください。話すと送信、黙ると受信、お互いが同時に声を出している間は送受信を一緒に行う同時通話、と自動的に動作が切り替わります。通話が終わったときに鳴るスタンバイ時の"ピッ"音が煩わしい場合は、セットモードでビープ音を"0"に設定してください。（説明書 P.39 セットモードのメニュー、P.41 のビープ音量設定)。尚、標準の同時通話モードでは VOX 側に設定しているとヘッドセットは使えませんのでご注意ください。
Ｃ：EME-19A では以下のように操作します。

＊　呼び出しと応答：EME-19A のコントロールボックス上の黒いボタンを押します。上記のＡ同様、PTT ロックが掛かり、ハンズフリーで通話できます。
＊　通話の終了：黒いボタンを再度押してロックを解除します。

尚、白いボタンは無線機の PTT と同様に動作します。（押している間は送信、指を放すと受信します。ロックは掛かりません）

注意：イヤホンマイクやヘッドセットなどのアクセサリーを接続した状態で、PTT LOCK 又は VOX を解除しないで電源を入れるとディスプレイが全画面表示になり、一切の操作ができなくなります。このときはアクセサリーのプラグを一度抜いてから電源を入れるか、PTT LOCK や VOX を解除してから電源を入れなおしてください。

P1/2

DJ-R20D レピーターケーブル仕様書 (DJ-R100系共通)

（＊N.C＝ケーブルに接続せず、空けたままにして下さい）

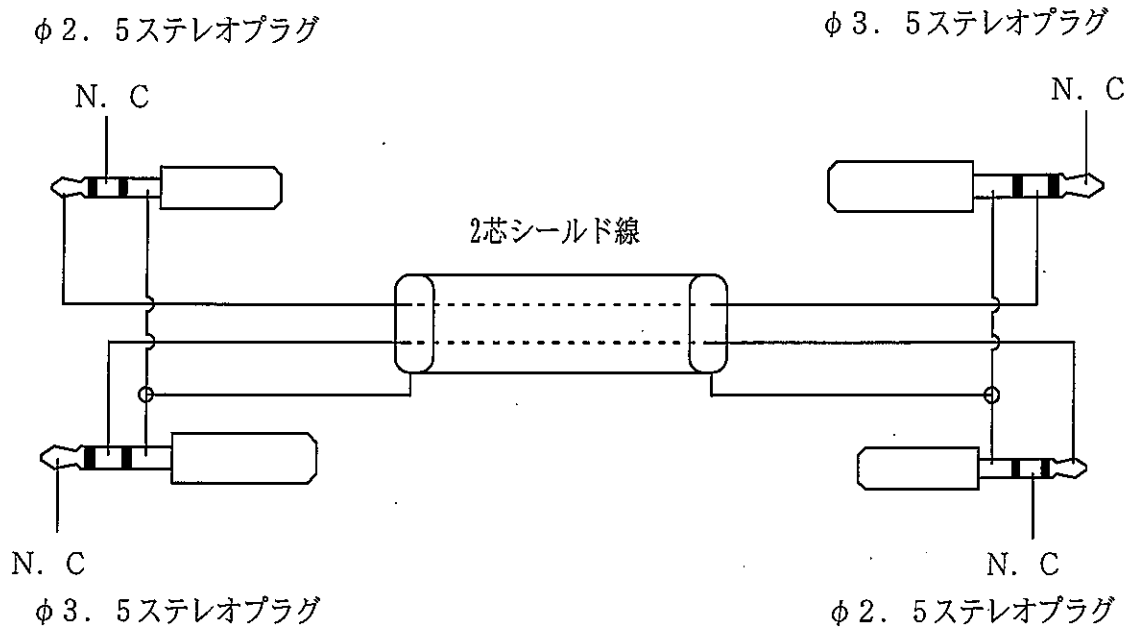
この度は弊社DJ－R20D型特定小電力無線機をお買い求め頂き誠に有難う御座います。本機の連結中継機能をお使い頂く為の接続ケーブル（レピーターケーブル）について以下ご説明致します。

1:レピーターケーブルは1セットで2本必要です。弊社オプションアクセサリーのADUA－78は80cm長のケーブル 2 本セットです。

2:ケーブルセットを自作される場合、市販のオーディオ機器用等に汎用されている太さ（2－3mm径）の 1 芯シールド線をお使い下さい。電子機器内部に使用する細いものは減衰量が大きくなり使用出来ない場合が有ります。

3:ケーブル長は任意です。設計時に200m長まで動作確認していますが、ご使用になるケーブルの太さや長さ、無線機の設置場所等の条件により動作の安定性、通信距離に変化が出る事が有ります。実際のご使用にあたっては事前に実地で通信テストを行なってからシステム全体の最終的な配線・設置をされることを強くお勧め致します。又、ケーブルが長くなる場合はプラグ部分に直接ケーブルの重量負担が掛からないように考慮して下さい。

アルインコ㈱ 電子事業部

DJ-R20D レピーターケーブル
2芯シールド線1本を使う加工例

同時通話中継について

＊ 説明書に記載した ch やトーンは例で、場所などの条件で上手く動かない様に感じる場合が有ります。この時は ch とグループトークトーンの番号を換えてお試し下さい。